

海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記をめくるように積み重ねた歴史を紹介します

“ 近藤廉平胸像 ”



大熊氏廣制作

1902年(明治35年)、ブロンズ、高さ 78.0cm、幅 54.0cm、奥行 32.0cm

日清戦争後の勲三等旭日中綬章を下賜された50歳前後の廉平の姿です。1896年(明治29年)の廉平の来訪者記録を見ると、何となく大熊が自宅に足を運び、写真だけでなく実際の本人を前にしてかなりの時間をかけ制作したことがうかがえます。

N YKの第三代社長である近藤廉平(1848~1921)の胸像は制作されてから100年以上の歴史を背負っています。写実的に造形された廉平像は、顔をやや上に向けて、動きを感じ、社長就任後の落ち着きと威厳を漂わせ、七つの海を制覇しようとする意欲的な眼差しを感じ取ることができます。明治維新以来、日本ではあらゆる分野において西欧に比肩する文化水準が求められ、美術品も例外ではありませんでした。作者は日本における近代彫刻の先駆者である大熊氏廣(1856~1934)です。現在の埼玉県川口市に生まれ幼少より日本画を学びましたが、工部美術学校

彫刻科に入学、ピンチエンツォ・ラッゲザ(1841~1927)に師事しました。1884年(明治17年)竣工の有栖川宮邸(ジョサイア・コンドル設計)の彫刻を担当し、銅像制作技術の習得のため、岩崎彌之助の援助を受け欧州に留学しました。帰国後は岩崎家から六義園にアトリエを提供され、当時の日本を代表する彫刻家として皇族・政治家・軍人・実業家・学者をモデルとした数多くの西洋式ブロンズ像の制作を手掛け、その名声は不動のものとなりました。代表的な作品に岩崎彌太郎像、靖国神社の大村益次郎像があります。

問い合わせ

日本郵船歴史博物館

- 所在地：神奈川県横浜市中区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- 開館時間：午前10時~午後5時
(最終入館：午後4時30分)
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

- 入館料：一般400円、シニア(65歳以上)・中高生250円、小学生以下無料
(NYKグループ社員と同伴者1人まで、社員証の掲示で入館無料)
- ウェブサイト：<http://www.nyk.com/rekish>